

< 報道発表資料 >

令和 8 年 2 月 9 日
京都市上下水道局経営戦略室

令和 8 年度 水道事業・公共下水道事業予算概要

令和 8 年度水道事業・公共下水道事業予算概要を別紙のとおり取りまとめましたので、お知らせします。

< お問合せ先 >

京都市上下水道局経営戦略室

電話：0 7 5 - 6 7 2 - 7 7 2 2



京都市上下水道局マスコットキャラクター
ホタルの澄都(すみと)くん

令和8年度 水道事業・公共下水道事業 予算概要

京都市上下水道局マスコットキャラクター
ホタルのひかりちゃん



令和8年度は、「京（みやこ）の水ビジョン ―あすをつくる―」の後期5か年の実施計画である「中期経営プラン（2023-2027）」の4年目として、将来にわたって市民の重要なライフラインである水道・下水道を守り続けるため、長期的な視点に立ち、老朽化した配水管の更新をはじめとした震災対策や、「雨に強いまちづくり」に向けた雨水幹線の整備等、プランに基づく事業を着実に推進します。

財政面においては、効率的な事業運営に努めるものの、前年度以上に、各種物価の高騰等による支出の増加の影響が大きく、建設改良のための積立金の確保については、プランを下回る厳しい見通しとなっています。

令和8年度予算のポイント

① 水道料金・下水道使用料収入



1～2ページ

家庭用の水量の減少・事業用の水量の増加の影響により、料金・使用料収入は令和7年度見込から微増の見通し

＜水道料金収入＞ 294.9億円【対R7見込+0.6億円、対R8プラン+6.7億円】

＜下水道使用料収入＞ 229.2億円【対R7見込+0.4億円、対R8プラン+0.9億円】

② 建設改良のための積立金（利益）



3～5ページ

効率的な事業運営に努めるものの、物価高騰等による支出の増加の影響が大きく、積立金の確保については、プランを下回る厳しい見通し

＜水道事業＞ 5.2億円【対R7見込△7.9億円、対R8プラン△11.4億円】

＜公共下水道事業＞ 14.9億円【対R7見込△6.6億円、対R8プラン△10.1億円】

③ 企業債残高



6ページ

建設改良事業を着実に推進しつつ、国の交付金等を最大限活用することで企業債の発行を抑制するものの、水道では残高がプランよりも増加

＜水道事業＞ 1,565億円【対R7見込△2億円、対R8プラン残高+2億円】

＜公共下水道事業＞ 2,276億円【対R7見込△74億円、対R8プラン残高△3億円】

④ 長期的な視点に立った事業の推進



7～14ページ

厳しい経営状況にあっても、市民の皆さまの生活を支える重要なライフラインである水道・下水道を守り続けるために、管路・施設の改築更新や浸水対策等、長期的な視点に立ち、着実に事業を推進

＜水道整備事業費＞188.0億円【対R7予算△12億円、対R8プラン±0億円】

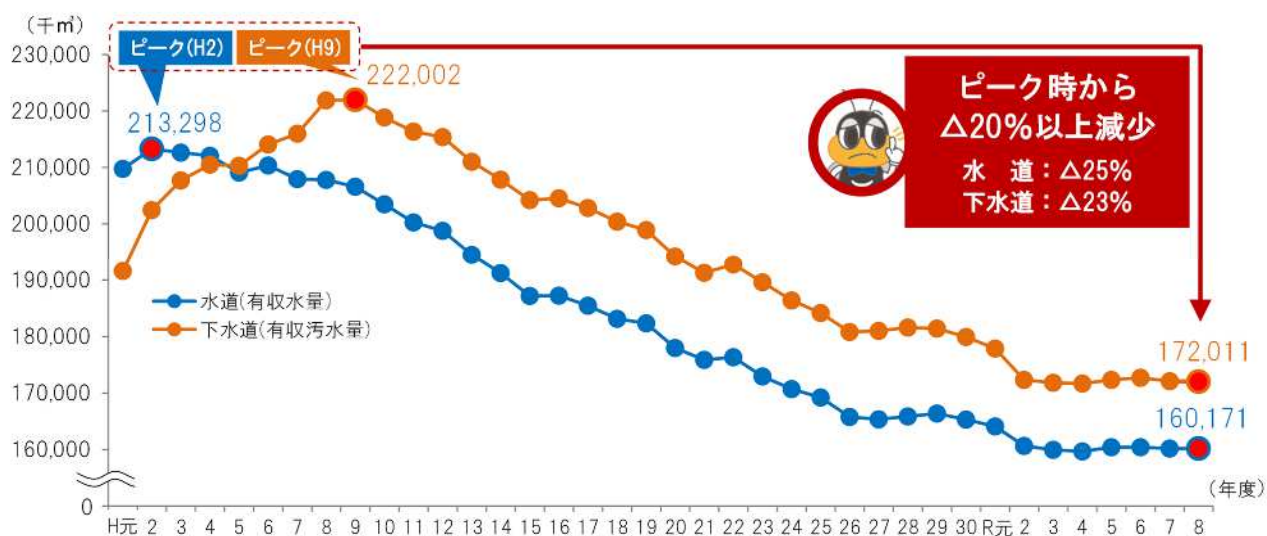
＜公共下水道整備事業費＞195.0億円【対R7予算+5億円、対R8プラン+5億円】

① 使用水量（水需要）

節水型社会の定着により減少が続く使用水量（水道：有収水量、下水道：有収汚水量）は、ピーク時（水道：平成2年度、下水道：平成9年度）と比較して△20%以上減少しています。

令和8年度の使用水量は、事業用の水量の増加を見込む一方、家庭用の水量は減少傾向にあるため、水量全体では令和7年度見込から横ばいを見込んでいます。また、プランとの比較では、主にホテル・旅館等の観光業の水量の増加により、水道では増加（+1.5%）を見込み、下水道では、工場等における水道以外（地下水等）の汚水量が想定を下回っていることから、微増（+0.3%）を見込んでいます。

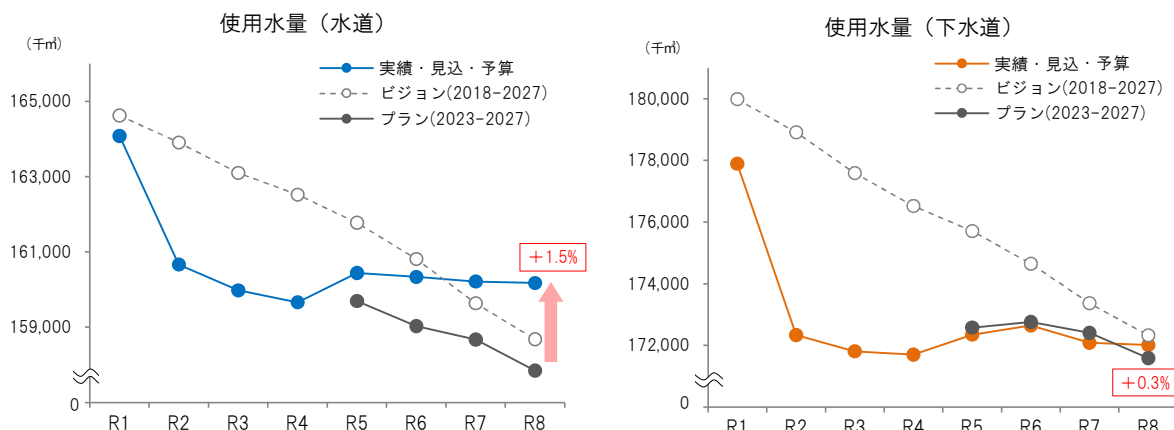
＜水道・下水道の使用水量の推移＞



＜使用水量の前年度比較＞

前年度比較（水道）（千m³）			前年度比較（下水道）（千m³）		
R7見込	160,210		R7見込	172,088	
△39 千m³ (△0.0%)			△77 千m³ (△0.0%)		
R8予算	160,171		R8予算	172,011	
	119,697	40,513		119,059	53,029
	家庭用 △408	事業用 +369		家庭用 △367	事業用 +290
	119,289	40,882		118,692	53,319

＜ビジョン・プランの見通しとの比較＞

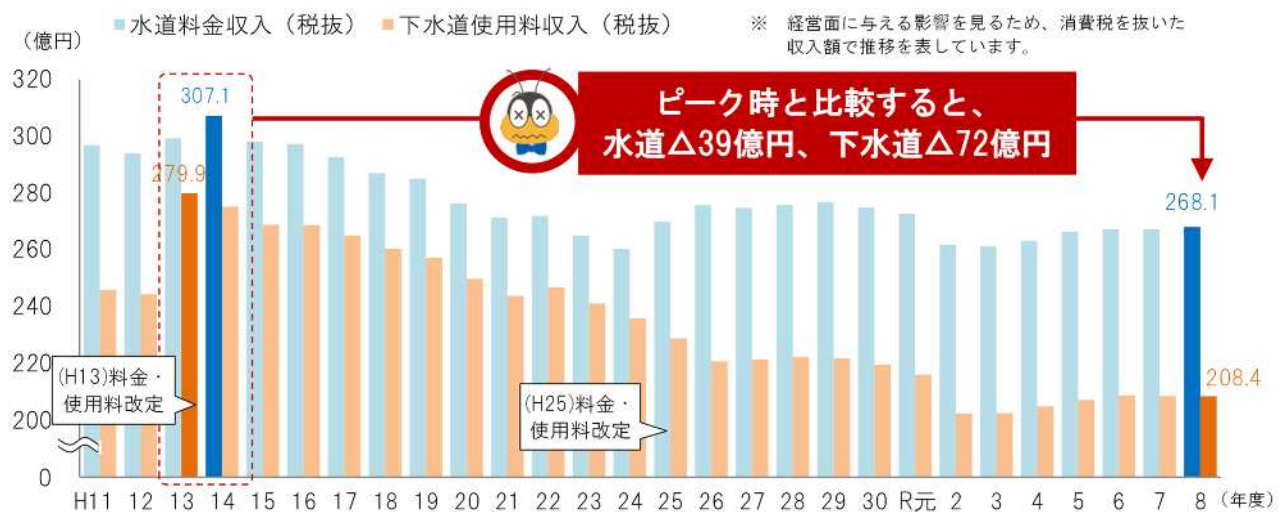


② 水道料金・下水道使用料収入

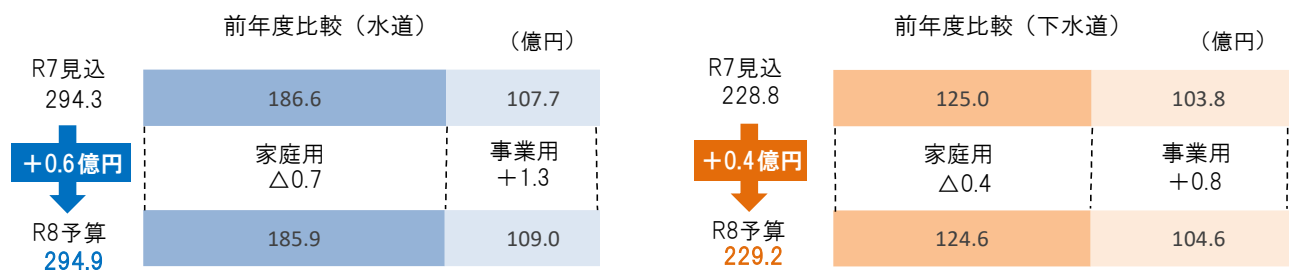
令和8年度は、使用水量全体は令和7年度見込から横ばいであるのに対し、**料金単価の高い事業用の水量の増加により、水道料金・下水道使用料収入は微増（水道+0.6億円、下水道+0.4億円）**を見込んでいます。

また、プランとの比較では、使用水量の変化に伴い、水道料金収入は増加（+6.7億円）、下水道使用料収入は微増（+0.9億円）を見込んでいます。

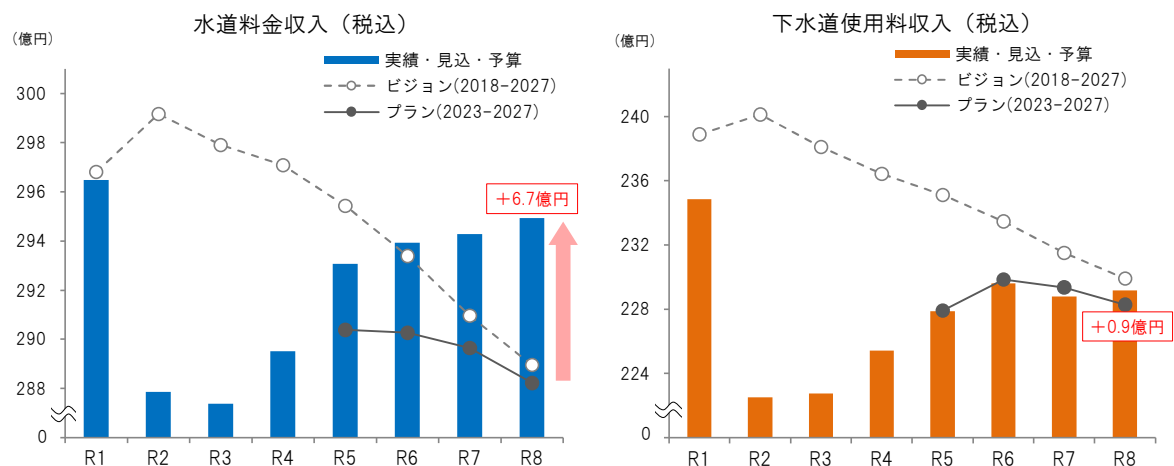
<水道料金・下水道使用料収入の推移>



<水道料金・下水道使用料収入の前年度比較（税込）>



<ビジョン・プランの見通しとの比較>



③ 経費支出の状況（人件費・物件費）

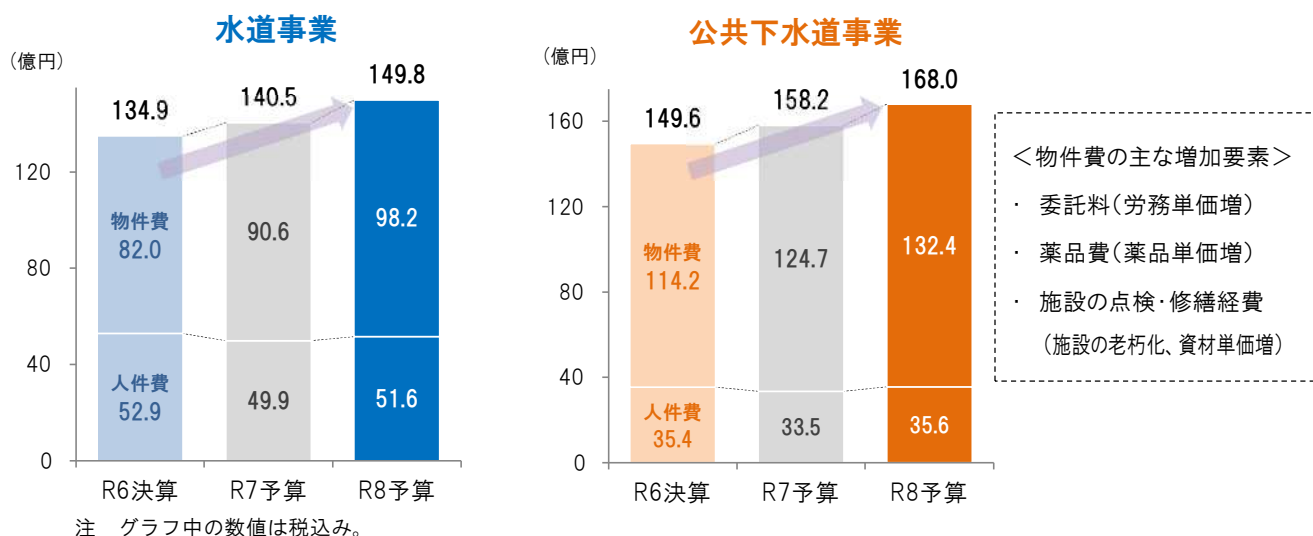
老朽化した管路や施設の改築更新・地震対策、大雨からまちやくらしを守る浸水対策など、市民の安全・安心につながる取組を着実に進めるためには、**効率的な事業運営を推進**することで収支改善に努め、事業の財源となる建設改良積立金（利益）をしっかりと確保する必要があります。

プランに掲げる
令和8年度の
主な取組

- ・ 民間活力の導入（水環境保全センターの運転監視等業務）等
 - ・ 水道配水管更新による漏水修繕経費や下水汚泥から生成する消化ガスの利用による都市ガス購入経費の減
- ※ これらのほか、あらゆる業務について再点検と見直しを実施

令和8年度は、プランに掲げる各取組を着実に進めていきますが、各種物価の高騰等により、経費支出は年々増加傾向にあり、前年度を大きく上回る見通しです。

<令和8年度の経費支出の状況（人件費・物件費）>



物価高騰の状況について

各種物価高騰の影響を受け、物件費は年々増加傾向にあります。

こうした物件費の上昇に伴い、経費支出全体が増加しており、物価高騰が経営を圧迫する要因となっています。

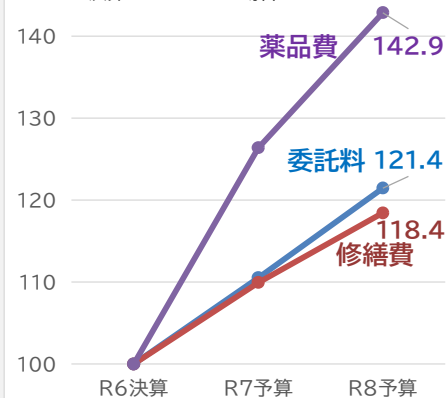
<物件費の主な増加要素>

- ・ 薬品単価の増に伴う薬品費の増加
- ・ 民間活力の導入や労務単価の増に伴う委託料の増加
- ・ 老朽化や資材単価増に伴う施設の点検修繕経費の増加

水道事業の薬品費の状況については、次ページで詳しく解説!!

<費目ごとの推移>

※R6 決算=100とした場合

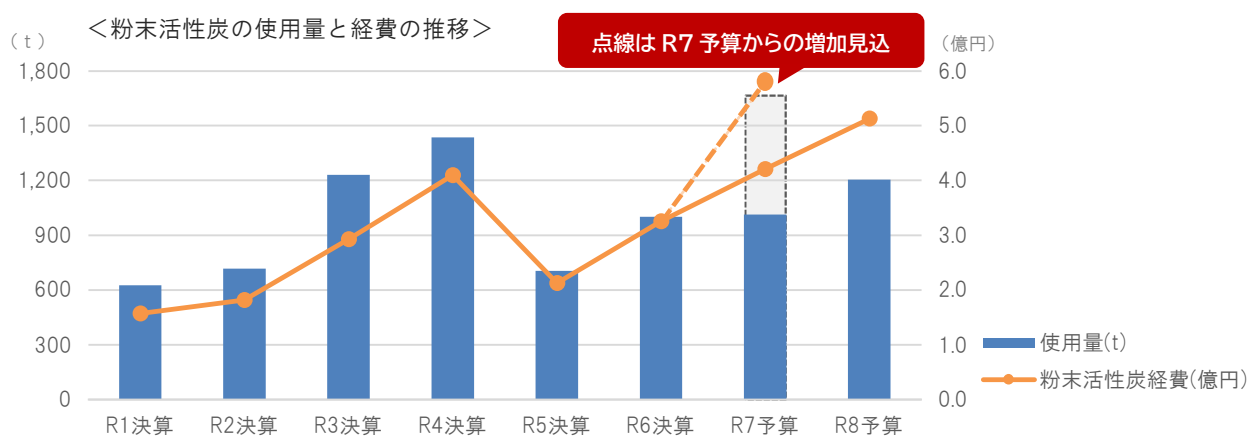


注 水道と下水道の合計値、税込みで分析

＜水道事業の薬品費の状況＞

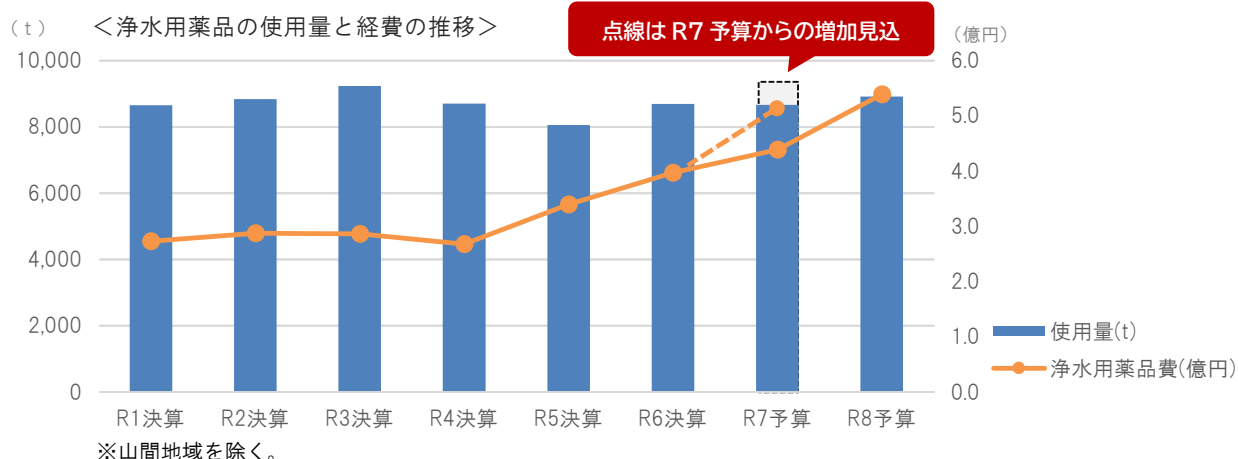
臭気物質を除去するための粉末活性炭経費

- ・ 水道水源である琵琶湖では、主にプランクトンの増殖により臭気物質が発生しており、上下水道局では浄水処理の強化や粉末活性炭による脱臭処理などに取り組んでいます。
- ・ 近年、臭気物質の発生期間が長期化し、濃度が上昇することも増えていることから、粉末活性炭の使用量が増加し、また、調達単価も上昇しているため、令和8年度予算での経費は5.1億円（令和7年度予算比+0.9億円）を見込んでおり、水道事業の財政状況に大きな影響が生じています。



原水の不純物の除去や消毒など、安全・安心な水道水を作るための薬品経費

- ・ 浄水場では、安全・安心な水道水を作るために、浄水処理の各工程において、薬品（水中に含まれる不純物を取り除くための凝集剤や殺菌等のための塩素剤など）を原水の状態に合わせて適切に注入しています。
- ・ 浄水用薬品については、調達単価も上昇しているため、令和8年度予算における経費は5.4億円（令和7年度予算比+1.0億円）を見込んでおり、水道事業の財政状況に大きな影響が生じています。



水道では、令和7年度において、薬品費の想定以上の増加に対応するため、粉末活性炭経費と浄水用薬品経費で約2億円の増額補正を予定

④ 建設改良のための積立金（利益）

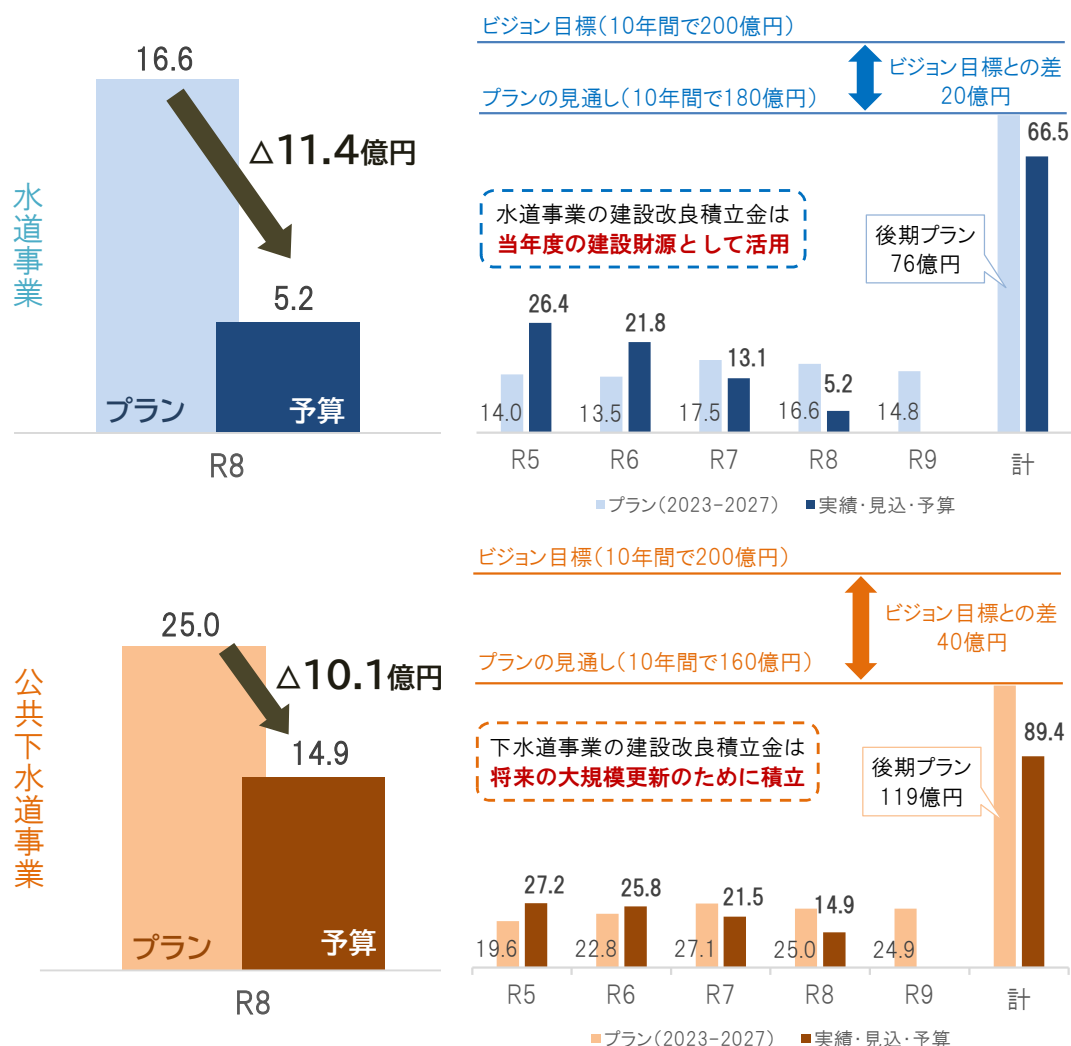
プランでは、老朽化した水道配水管の更新や下水道の将来の大規模更新の財源となる建設改良積立金（利益）について、5か年で水道は76億円、下水道は119億円（前期と合わせた10年間では、水道180億円、下水道160億円）を確保する見通しを示しています。

令和8年度は、効率的な事業運営に努めるものの、各種物価の高騰等による支出の増加の影響が大きく、建設改良のための積立金の確保については、プランを下回る厳しい見通しです。

特に積立金を当年度の建設財源として活用する**水道事業においては、資本的収支の累積資金不足（建設改良事業の財源が不足する状況）※が前年度から拡大することとなり、物価高騰や金利上昇等の継続が見込まれる中、中長期的にも財源確保に向けては厳しい状況が続くことが想定**されます。

※累積資金不足については18ページ参照

＜プランとの比較（左：単年度比較、右：経年比較）＞



ビジョンに掲げる建設改良積立金の確保目標について

ビジョンでは、建設改良の財源として、10年間で水道・下水道それぞれ200億円の積立金の確保を目標として掲げています（工事費の上昇等の影響を踏まえると、より多くの財源が必要となることが見込まれます。）。一方、後期プランでは、新型コロナウイルスの影響による減収や各種物価の高騰など、ビジョン策定時には想定していなかった社会情勢の変化を踏まえ、積立金確保額の見通しを下方修正（水道180億円、下水道160億円）しています。

このため、後期プラン期間では、プランの見通しからの積立金の上積みを目指すこととしていますが、想定を超える物価高騰等による支出の増加の影響により、積立金の確保額は年々減少している状況です。

積立金が年々減少



⑤ 企業債残高

本市では、安価な上下水道料金を維持するため、建設事業の財源の多くを企業債（借金）に依存してきており、その残高は水道料金・下水道使用料等の約6倍に達し、償還金（返済）や利息負担が経営を圧迫しています。

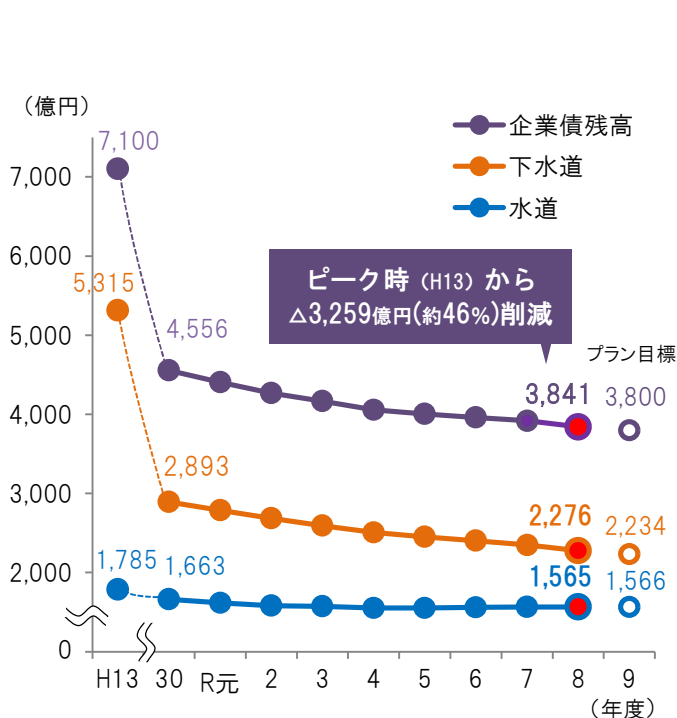
今後増大していく管路や施設の改築更新等を進めるに当たっては、金利が上昇局面にある中、将来世代に負担を先送りしないよう、企業債に過度に依存しないことが重要となります。これまでから着実に進めてきた企業債残高の削減について、プランでは、改築更新等のための財源となる建設改良積立金（利益）を確保することで企業債の発行を抑制し、企業債残高の更なる削減に努めることを掲げています。

建設改良事業を着実に推進しつつ、国の交付金等を最大限活用することで企業債の発行を抑制するものの、水道では残高がプランよりも増加する見通しです。

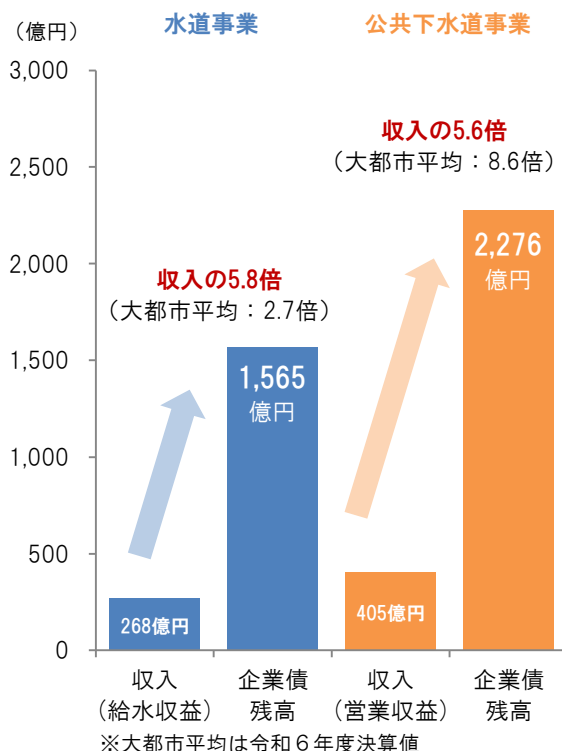
<令和8年度末の企業債残高（翌年度延伸分を含む残高）>

区分	R7 見込	R8 プラン	R8 予算	前年度比	プラン比
水 道	1,567 億円	1,563 億円	1,565 億円	△2 億円	+2 億円
下水道	2,350 億円	2,279 億円	2,276 億円	△74 億円	△3 億円
計	3,917 億円	3,842 億円	3,841 億円	△76 億円	△1 億円

<企業債残高の推移>



<収入と企業債残高（令和8年度）>



⑥ 長期的な視点に立った事業の推進

令和7年1月に埼玉県八潮市で発生した下水道に起因する道路陥没事故や、同年4月の本市水道管破損による漏水事故等を踏まえ、全国的にも、上下水道の老朽化対策の加速化が求められている状況です。

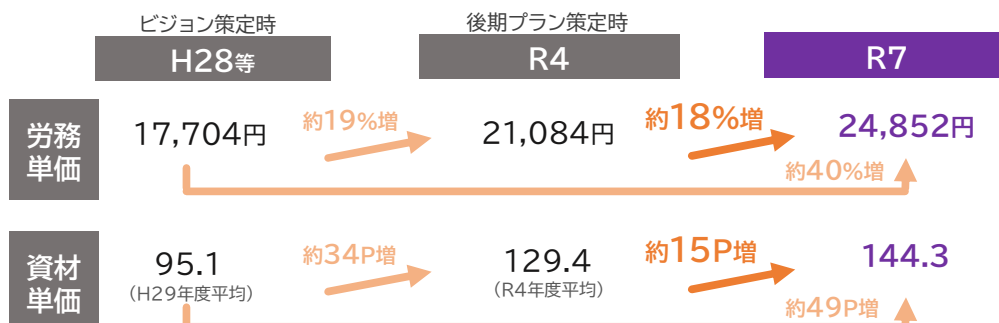
施設マネジメントの検討結果からも、安全性を確保しながら可能な限り長く、管路・施設を使用し、平準化してもなお、中長期的には、現状を上回る規模での事業量を確保していかなければならない見通しとなっています（P22 参照）。

一方、これまでも上昇傾向にあった労務単価や資材単価は、近年の社会情勢を受けてさらに高騰しておりますが、**優先度を踏まえた事業内容の見直しや、必要な建設改良事業費の増額を図ることによって、管路・施設の改築更新や浸水対策等、市民の安全・安心を守る重要事業を着実に推進します。**

＜管路の破損事故等を踏まえた対応＞

水道	铸铁管の対応を前倒し！	下水道	約 110 kmの管路を重点調査中！
	<p>铸铁管の調査の頻度を増やすほか、破損時の影響が大きい緊急輸送道路下の主要な管路の対策を前倒し</p> <p>⇒ 令和9年度までの解消を目指します。</p>		<p>重点調査により発見された不具合は、状況に応じた対策を実施</p> <p>⇒ 国の示す目標である令和12年度までに健全性を確保します。</p>

＜労務単価及び資材単価の状況＞



※ 労務単価は、国交省通知に基づく公共工事設計労務単価（全国全職種平均）

資材単価は、（一財）経済調査会の都市別建設資材価格指数（土木・京都）（R2を100とした場合）

＜令和8年度における建設改良事業費設定の考え方＞

水道	<p>プランの事業費と同額（R8：188億円）を確保し、大規模事業（新山科浄水場導水トンネル築造工事（当初H29-R9→工期をR14まで延長予定））の進捗に応じて整備事業の内容を一部見直すことで、労務単価や資材単価の高騰に伴う工事費上昇に対応しつつ、優先度を踏まえた改築更新・地震対策等を進めます。</p>
下水道	<p>プランから事業費を増額（R8：190億円→195億円）することで、労務単価や資材単価の高騰に伴う工事費上昇に対応しつつ、管路の重点調査の結果を踏まえた対応やプランに掲げる事業（鳥羽第3導水きよの整備（R2-9完成予定）等）を着実に実施します。</p>

※ 下水道では、令和7年度においても、増加を見込む国費を活用して、事業費の増額補正（R7当初：190億円 → 補正後：約201億円）を予定

⑦ 主要事業の紹介

令和8年度に実施予定の主な事業の概要について、「京（みやこ）の水ビジョンーあすをつくるー」の構成に沿って御紹介します。

市民・事業者の皆さまにとって重要なライフラインである水道・下水道を守り続けるため、長期的な視点に立ち、着実に事業を推進します。

＜「京（みやこ）の水ビジョンーあすをつくるー」の取組の構成＞



エスディーゼーズ

上下水道局はSDGsを推進しています

SDGsの理念や方向性等については、「京（みやこ）の水ビジョンーあすをつくるー」及びその後期5か年の実施計画「中期経営プラン（2023-2027）」等と共通するものであり、上下水道局は、ビジョン及びプランのもと、SDGsの達成に向けた取組を推進しています。

関連するSDGsの目標（ゴール）





視点① 京の水をみらいへつなぐ

水源から蛇口までの水質管理を徹底し、安全・安心な水道水をつくります

水質管理（水道）、浄水場の改築更新や維持管理



つくる

水道施設の改築更新・地震対策



新山科浄水場導水トンネル築造工事
(トンネル掘進の様子)

45.4 億円

【水道】

浄水場の基幹施設について、引き続き改築更新・地震対策を進めます。

令和8年度は、新山科浄水場導水トンネル築造工事を継続するとともに、新山科浄水場高区1・3号配水池耐震化工事に着手します。



老朽化した管路の更新と耐震化を進め、水道水を安定してお届けし、下水を確実に集めます

水道・下水道管路の改築更新や維持管理



はこぶ

水道管路の改築更新・地震対策



配水管工事

142.6 億円

【水道】

老朽化した水道管路の更新を継続（約55km）し、更新時には、耐震性・耐久性に優れる管材料を使用することで耐震化を図ります。

また、給水のバックアップ機能を強化するため、隣接する給水区域間をつなぐ連絡幹線配水管の布設を引き続き実施します。

はこぶ

下水道管路の改築更新・地震対策



下水道管路の更生工事

96.9 億円

【下水道】

更生工法（長寿命化）や布設替えにより、老朽化した下水道管路の計画的な更新と重要な下水道管路の耐震化を進めます。

令和8年度は、引き続き約33kmの下水道管路について、改築更新・地震対策を進めます。

また、住吉ポンプ場において、監視制御設備工事を継続して実施するとともに、雨水ポンプ設備の更新工事に着手します。



下水をきれいにして川へ返し、市内河川や下流域の水環境を保全します

水質管理（下水）、 水環境保全センターの改築更新や維持管理



きれいにする 下水処理施設の改築更新・地震対策



鳥羽水環境保全センター汚泥焼却炉

54.4 億円
【下水道】

水環境保全センターの主要な施設について、引き続き改築更新・地震対策を進めます。

令和8年度は、鳥羽水環境保全センターにおいて、汚泥焼却炉改築更新工事、沈砂池改築更新工事を継続して実施するとともに、第2東ポンプ場ポンプ設備の更新工事等に着手します。



市民の皆さまとともに、地震や大雨などの災害から、まちとくらしを守ります

防災・減災対策（公助、共助・自助）や浸水対策



まもる 防災・減災のための装備等の強化



災害用マンホールトイレ
（右上は設置時の様子）

4.1 億円
【水道・下水道】

災害時におけるトイレ機能を確保するため、避難所となる小中学校等への災害用マンホールトイレの整備を推進します。

（R7：221 か所 → R8：239 か所）

また、防災備品等を充実させるとともに、継続的に訓練を実施し、災害対応力の強化を図ります。

まもる 浸水対策の推進



鳥羽第3導水きょ

40.9 億円
【下水道】

「雨に強いまちづくり」を推進し、浸水に対する安全度を更に向上させるため、大雨の時に雨水を取り込む雨水幹線等の整備を引き続き進めます。

令和8年度は、鳥羽第3導水きょの整備を継続して実施します。

いどむ

未来の上下水道事業につながる調査・研究の実施

▼ 蹴上浄水場に設置した実験プラント



▼ デジタル空間を活用した業務の合理化



1.0 億円

【水道・下水道】

水道事業では、水道水源における臭気物質への対応等、最適な浄水プロセス等を検討するため、実験プラントを用いて調査研究を実施します。

下水道事業では、施設の点検の合理化を目指し、デジタル空間を活用した手法に関する研究を実施します。

このほか、上下水道局内で民間企業にDX等の新技術を紹介いただく取組を令和8年度も継続して実施します。
(ゼロ予算)



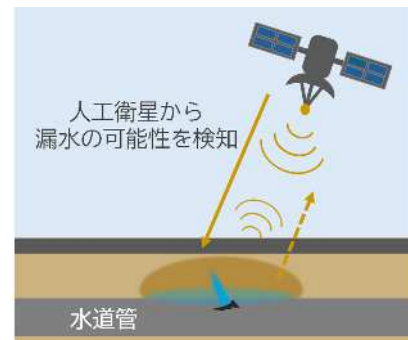
この他にも新しい技術の活用・研究を進めています！！

衛星画像を活用した広域漏水調査

衛星画像をAIで解析し漏水を調査

衛星画像をAIで解析し、漏水の疑いがあるエリアを推定する新たな技術を京都府内の17事業体共同で広域的に実施します。

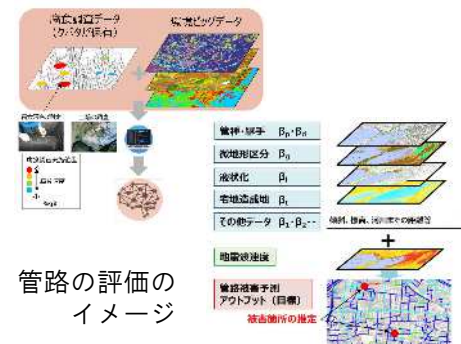
本市では、山間地域を対象に、漏水箇所を特定する音聴調査の対象範囲を絞るために当技術を活用することで、従来の漏水調査と比較して有効性や効率性を検証します。



水道管路の更新優先順位付け手法の研究

多様な環境データとAI技術を活用

今後、更新時期を順次迎える高度経済成長期以降に整備した水道管路に対し、多様な環境データとAI技術を活用した管路の評価手法を用い、老朽度及び地震被害をより精緻に評価することで、最適な更新優先順位付けを効率的に行う手法を開発しています。



AIを活用した下水道管の劣化判定等の研究

高画質管口カメラ×AIで効率的に劣化判定

老朽下水道管が増加する中、厳しい財政状況下において、事故を未然に防ぎつつ、長期間下水道管を使用することが求められています。そこで、効率的な点検手法として、高画質管口カメラで撮影した管内写真をAIにより劣化判定する研究を実施しています。

また、現地撮影から劣化判定までをシームレスにつなぐタブレットシステムを構築することで、維持管理を強化し、強靱で持続可能な下水道サービスを目指します。



AIによる劣化判定(左)
高画質管口カメラ(右)



視点② 京の水でこころをはぐくむ



分かりやすく伝え、しっかりと声を受け止め、
市民の皆さまの期待に応え続けます

方針① こたえる

お客さまサービス、広報・広聴活動



こたえる 新たなお客さまサービスの展開（水道スマートメーターの活用）

水道スマートメーターの
活用イメージ▼

〈目視による従来の検針〉



水道メーター

検針員



〈水道スマートメーターを活用した自動検針〉



水道スマートメーター

上下水道局

1.2 億円

【水道】

このうち 61 百万円
は、国の交付金を財源
として活用する予定

労働人口の減少による将来的な検針員不足に対応するため、水道スマートメーターを活用した自動検針を一部地域で導入し、実運用及び検証を開始します。

これまでの調査研究や実証実験を踏まえ、まずは、市内中心部と比べて導入効果の大きい山間地域等に令和 8 年度～令和 10 年度の 3 年間で順次導入します。

水道スマートメーターの活用により、検針業務の効率化をはじめ、時間ごとの検針情報を取得することが可能となるため、京都市上下水道局アプリと連携して、これまで以上に詳細な水の使用状況や漏水の早期発見に役立つ情報（漏水疑いのお知らせ等）が提供できるようになるなど、お客さまサービスの向上が期待できます。



水道スマートメーターとは

水道メーターに無線通信端末を接続したもの。

これにより自動検針が可能となり、各住居等を訪問せずに遠隔で指針値や漏水疑いのアラートなどの情報を取得することができるようになります。

こたえる 戦略的な広報活動（事業への理解促進、水需要喚起の広報活動）

▼ 蹴上のつつじ



鳥羽の藤 ▲



45 百万円

【水道・下水道】

このうち 8 百万円は、
寄附金等を財源として
活用します（一般公開
事業に充当）。

水道・下水道事業への理解促進や水需要の喚起を図るため、鳥羽水環境保全センター（藤の花）・蹴上浄水場（つつじ）の一般公開事業を皮切りに、水道・下水道に親しむ、様々なイベントを実施します。

また、ウェブサイトや SNS、印刷物など、多様な媒体を活用したクロスメディア広報を通じた広報活動を展開します。

検針時配布
リーフレット ▶





琵琶湖疏水の魅力を高め、地球環境にやさしい事業運営により、まちやこころをゆたかにします

文化や景観、地球環境に配慮した事業運営



ゆたかにする

琵琶湖疏水の魅力発信（びわ湖疏水船、琵琶湖疏水記念館）



びわ湖疏水船事業



琵琶湖疏水記念館

73 百万円

【水道】

このうち 65 百万円は、国の補助金及び寄附金等を財源として活用します。

令和 7 年度の琵琶湖疏水施設の国宝・重要文化財の指定を踏まえ、びわ湖疏水船事業（実施主体：琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会）を通して、国からの交付金も活用しながら、琵琶湖疏水沿線の更なる魅力向上を促進するほか、琵琶湖疏水記念館における企画展の開催などに取り組み、琵琶湖疏水の魅力向上・情報発信を図ります。

ゆたかにする

創エネルギー対策（大規模太陽光発電等、下水污泥固形燃料化）



太陽光発電設備
（石田水環境保全センター）



1.4 億円

【水道・下水道】

施設に設置している大規模太陽光発電設備により、再生可能エネルギーの継続的な利用を図るほか、固形燃料化等、下水污泥の有効利用にも取り組み、発電した電気や固形燃料は売却し、収入の確保を図ります。

このほか、P P A 方式により新たな太陽光発電設備の設置※を進めます。
※ 発電した電気は場内利用し、温室効果ガス排出量の削減を推進



視点③ 京の水をささえつづける



これまで培ってきた技術をしっかりと継承し、
京の水の担い手を育て、きずなを強めます

職員の育成、市民・事業者の皆さまとの連携



になう

技術力の向上・技術継承の推進とチャレンジ精神あふれる職員の育成



採用2年目の技術職員を対象とした
専門技術研修の様子

34 百万円

【水道・下水道】

中堅・若手職員を対象に、体系的な技術研修を計画的に実施します。さらに、e-ラーニングや体験型研修施設等の効果的な活用を通じて、職員の技術力の向上と技術継承を推進します。

また、災害対応やデジタル化といった多様な事業課題に対応するため、実践的な研修を展開します。加えて、資格取得支援制度の利用促進や民間企業との相互研修、若手職員同士の交流機会の創出を通じて、チャレンジ精神にあふれる職員を育成します。



50年後、100年後を見据えた経営を行い、
将来にわたって京の水を支え続けます

方針2 ささえる

事業の効率化など、長期的な視点に立った経営



ささえる

民間活力の導入



水環境保全センターにおける
運転監視等業務

1.3 億円

【下水道】

民間活力の更なる導入として、令和8年度から鳥羽水環境保全センターの運転監視等業務の一部を委託化します。

また、ウォーターPPPを含め、多様な官民連携手法について、引き続き検討します。

ささえる

保有資産の有効活用



鳥羽水環境保全センター西側用地
(令和8年度に売却を予定している下水道用地の一部)



12.3 億円

【水道・下水道】

財務体質の更なる強化に向けて、保有資産の有効活用を進めます。

令和8年度は、引き続き、山ノ内浄水場跡地、本庁舎跡地及び総合庁舎内の資産活用スペース等の貸付を実施するとともに、京都府南部消防指令センター設置等に伴い、下水道用地を消防局へ有償管理換え（売却）する予定です。

⑧ 各会計の予算状況（１）業務量等

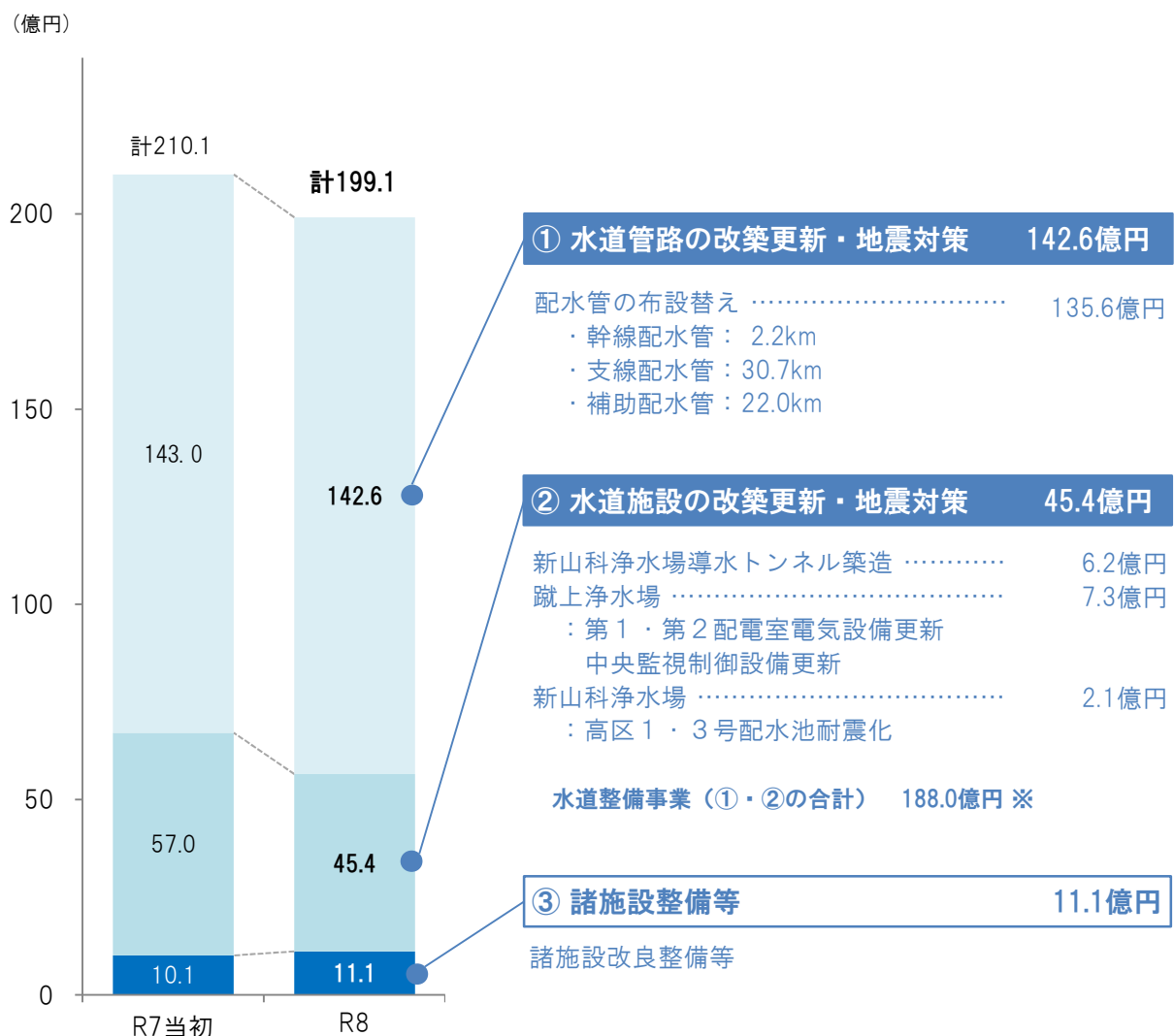
水道事業特別会計

１ 業務量

項目	令和7年度当初予算	令和8年度予算	増△減	
年間給水量（千 m ³ ）	174,109	174,218	109	0.1%
1日最大給水量（千 m ³ ）	499	509	10	2.0%
年間有収水量（千 m ³ ）	160,022	160,171	149	0.1%
有収率（%）	91.9	91.9	0	—
期末使用者数（件）	811,600	817,200	5,600	0.7%

注 「年間有収水量」の増△減は、前年度予算との比較であり、前年度見込との比較（１ページ）とは異なります。

２ 令和8年度建設改良事業（建設改良費：199.1億円（税込み））（内訳は主な事業）



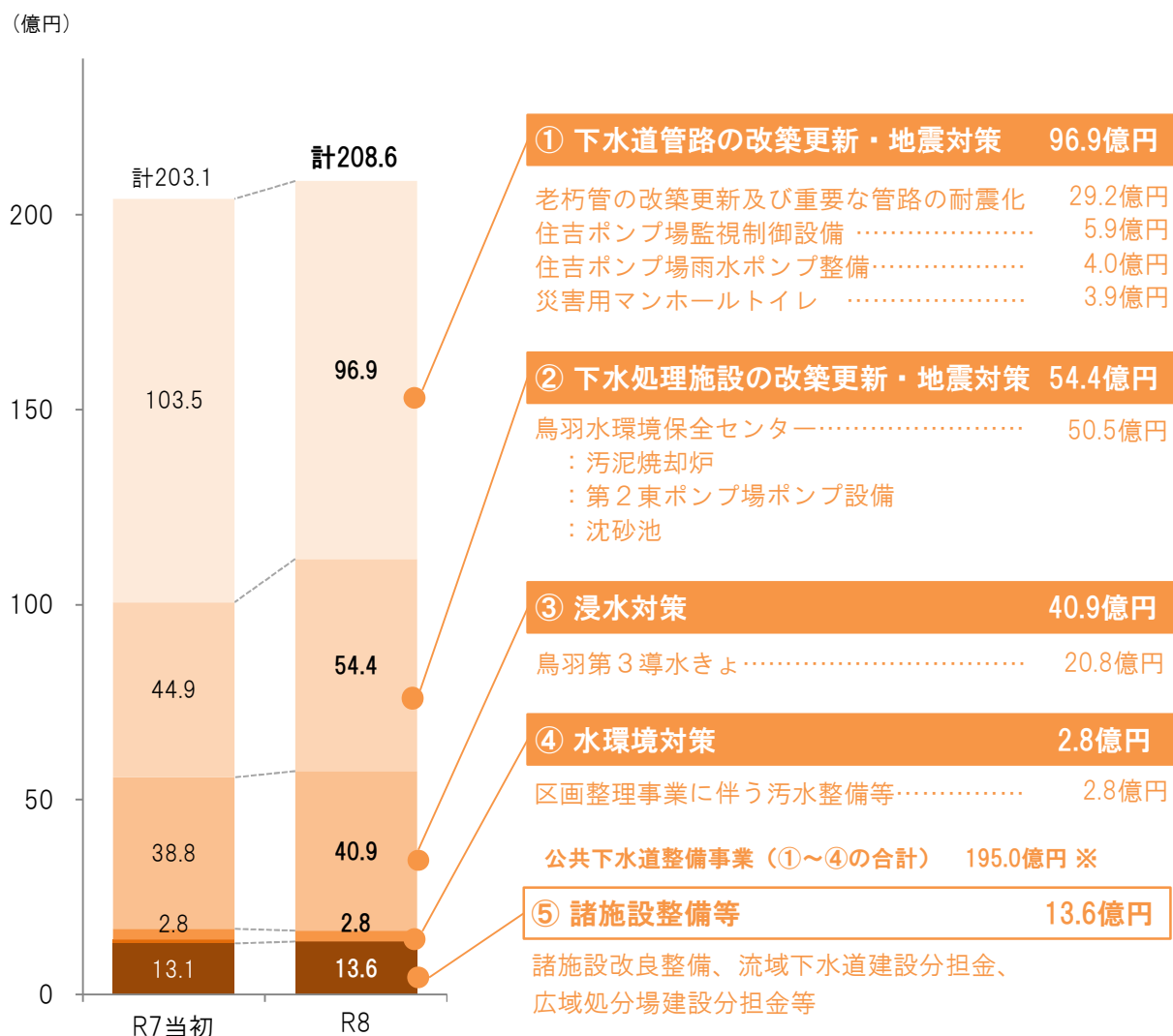
公共下水道事業特別会計

1 業務量

項目	令和7年度当初予算	令和8年度予算	増△減	
人口普及率 (%)	99.5	99.5	0	—
年間流入下水量 (千 m ³)	334,737	334,756	19	0.1%
年間有収汚水量 (千 m ³)	172,225	172,011	△214	△0.1%
期末使用者数 (件)	800,100	805,400	5,300	0.7%

注 「年間有収汚水量」の増△減は、前年度予算との比較であり、前年度見込との比較（1 ページ）とは異なります。

2 令和8年度建設改良事業（建設改良費：208.6 億円（税込み））（内訳は主な事業）



※ 公共水道整備事業の予算額は、R7 当初：190 億円（補正後（予定）：約 201 億円） → R8：195 億円

⑧ 各会計の予算状況（２）水道事業特別会計

1 収益的収支

項目		令和7年度当初予算 億 百万円	令和8年度予算 億 百万円	増 億 百万円	△ 億 百万円	減 %
収入	給 水 収 益	293 95	294 93		98	0.3
	水道施設維持負担金	1 33	1 15	△	18	△ 13.5
	一 般 会 計 繰 入 金	7 32	7 29	△	3	△ 0.4
	下水道使用料徴収等経費負担金等	26 58	28 06		1 48	5.6
	長 期 前 受 金 戻 入 益	19 19	19 20		1	0.1
	計	348 37	350 63		2 26	0.6
支出	人 件 費					
	給 与 費	46 31	48 04		1 73	3.7
	退職給付引当金	3 57	3 55	△	2	△ 0.6
	小 計	49 88	51 59		1 71	3.4
	物 件 費	90 57	98 18		7 61	8.4
	減 価 償 却 費 等	139 84	138 46	△	1 38	△ 1.0
	支 払 利 息 等	14 41	16 84		2 43	16.9
	消 費 税	21 19	20 48	△	71	△ 3.4
	計	315 89	325 55		9 66	3.1
当 年 度 経 常 △ 損 益		32 48	25 08	△	7 40	—
特 別 △ 損 益		5 27	—	△	5 27	—
当 年 度 純 △ 損 益		37 75	25 08	△	12 67	—
利 益 処 分 額		△ 37 75	△ 25 08		12 67	—
内 訳	建 設 改 良 積 立 金	△ 13 04	△ 5 19		7 85	—
	基 金 造 成 積 立 金	△ 5 52	△ 69		4 83	—
	資 本 金	△ 19 19	△ 19 20	△	1	—



【補足】積立金について

① 建設改良積立金

「建設改良積立金」（令和8年度予算：5.2億円）は配水管更新の財源の一部とするためのものです。「積立金」という名称ですが、水道会計では当年度中の財源として充当しており、毎年度積み上がっていくものではありません。

② 基金造成積立金

令和4年度に実施された包括外部監査での指摘を踏まえ、基金収入の対象となる取引の会計処理について、これまで資本的収入としていた項目（土地の売却収益、基金の運用益及び寄附金）を収益的収入（特別利益等）に改めました。これらの収入については、「基金造成積立金」として積み立て、基金造成のための財源として充当します。

※ 公共下水道事業においても同様の対応を行っています。

2 資本的収支

項目			令和7年度当初予算 億 百万円	令和8年度予算 億 百万円	増 億 百万円	△ 億 百万円	減 %
収 入	企 建 設 企 業 債		101 00	89 00	△ 12 00		△ 11.9
	業 借 換 企 業 債		64 80	70 06	5 26		8.1
	債	小 計	165 80	159 06	△ 6 74		△ 4.1
	一 般 会 計 出 資 金		3 13	11 02	7 89		著増
	国 庫 補 助 金		6 41	5 94	△ 47		△ 7.3
	加 入 金		4 26	4 25	△ 1		△ 0.2
	基 金 繰 入 金		29	8	△ 21		△ 72.4
	固 定 資 産 売 却 代 金		23	—	△ 23		皆減
	工 事 負 担 金 等		4 68	4 67	△ 1		△ 0.2
	計		184 80	185 02	22		0.1
支 出	建 設 改 良 費		210 10	199 13	△ 10 97		△ 5.2
	企 業 債 償 還 金	建 設 企 業 債 償 還 金	92 54	91 36	△ 1 18		△ 1.3
	建 設 企 業 債 借 換 分 償 還 金		64 80	70 06	5 26		8.1
	小 計		157 34	161 42	4 08		2.6
	基 金 造 成 費 等		7 09	2 80	△ 4 29		△ 60.5
	計		374 53	363 35	△ 11 18		△ 3.0
収 支 差 引 過 △ 不 足 額			△ 189 73	△ 178 33	11 40		—
損 益 勘 定 留 保 資 金 等			156 27	154 91	△ 1 36		—
建 設 改 良 積 立 金			13 04	5 19	△ 7 85		—
基 金 造 成 積 立 金			5 52	—	△ 5 52		—
当 年 度 資 金 過 △ 不 足 額			△ 14 90	△ 18 23	△ 3 33		—
累 積 資 金 過 △ 不 足 額			△ 5 87	△ 7 82	△ 1 95		—

(令和7年度末見込累積資金過△不足額 1,041 百万円)

3 企業債残高

項目	令和7年度末見込 未 償 還 残 高 億 百万円	令和8年度末予定 未 償 還 残 高 億 百万円	増 億 百万円	△ 億 百万円	減
建 設 企 業 債	1,567 09	1,564 73	△ 2 36		

4 基金残高

項目	令和7年度末見込残高 億 百万円	令和8年度末予定残高 億 百万円	増 億 百万円	△ 億 百万円	減
水 道 事 業 基 金	77 21	78 65	1 44		

【補足】累積資金不足について

物価高騰等の影響により建設改良積立金が減少することや、対象工事の進捗に伴って国庫補助金収入額が後年度に遅れることなどから、令和8年度は累積資金過△不足額がマイナスとなり、建設事業の財源が不足する状況です。資金不足に対しては、引き続きあらゆる経営努力を尽くすことで収支改善に努めることなどにより対応を図りますが、物価高騰や金利上昇等の継続が見込まれる中、中長期的にも財源確保に向けては厳しい状況が続くことが想定されます。

各会計の予算状況（３）公共下水道事業特別会計

1 収益的収支

項目		令和7年度当初予算 億 百万円	令和8年度予算 億 百万円	増 億 百万円	△ 億 百万円	減 %
収 入	下水道使用料	229 36	229 18	△ 18		△ 0.1
	繰入金 一般会計 雨水処理負担金	185 20	190 82	5 62		3.0
	繰入金 一般会計 その他負担金	9 51	9 69	18		1.9
	繰入金 一般会計 小 計	194 71	200 51	5 80		3.0
	浄水場排水処理負担金等	7 98	9 29	1 31		16.4
	長期前受金戻入益	72 52	74 23	1 71		2.4
	計	504 57	513 21	8 64		1.7
支 出	人件費 給与費	31 33	32 51	1 18		3.8
	人件費 退職給付引当金等	2 12	3 11	99		46.7
	人件費 小 計	33 45	35 62	2 17		6.5
	物件費	124 75	132 42	7 67		6.1
	減価償却費等	279 28	283 48	4 20		1.5
	支払利息等	23 58	24 62	1 04		4.4
	消費税	13 88	13 83	△ 5		△ 0.4
	計	474 94	489 97	15 03		3.2
当年度経常△損益		29 63	23 24	△ 6 39		—
特別△損益		—	3 36	3 36		—
当年度純△損益		29 63	26 60	△ 3 03		—
利益処分額		△ 29 63	△ 26 60	3 03		—
内 訳	建設改良積立金	△ 21 22	△ 14 92	6 30		—
	基金造成積立金	△ 5	△ 3 51	△ 3 46		—
	資本金	△ 8 36	△ 8 17	19		—



【補足】建設改良積立金、一般会計からの出資金再開について

① 建設改良積立金

「建設改良積立金」（令和8年度予算：14.9 億円）は、プランに基づき、「将来の大規模更新に備えた積立金」として確保します。

② 一般会計からの出資金再開

全会計連結の視点から令和7年度まで休止していた、下水道事業に対する一般会計からの繰入金（出資金）を令和8年度から再開（令和8年度予算：5 億円）します。

工事費の上昇が進むなど下水道事業の財政状況が厳しさを増す中、出資金再開により増加する財源を活用することで、企業債発行の抑制や累積資金不足の改善に努めるとともに、引き続き、プランに基づき市民の安全・安心を守る重要事業を着実に実施します。

2 資本的収支

項目		令和7年度当初予算 億 百万円		令和8年度予算 億 百万円		増	△	減
						億 百万円		%
収入	建設企業債	118	15	132	98	14	83	12.6
	一般会計出資金		—	5	00	5	00	皆増
	国庫補助金	37	97	37	97		0	0.0
	固定資産売却代金		—	3	36	3	36	皆増
	工事負担金等	4	32	3	77	△	55	△ 12.7
	計	160	44	183	08	22	64	14.1
支出	建設改良費	203	10	208	59	5	49	2.7
	企業債償還金	169	63	181	31	11	68	6.9
	資本費平準化債償還積立金	15	40	15	40		0	0.0
	小計	185	03	196	71	11	68	6.3
	基金造成費等	20	21	28	86	8	65	42.8
	計	408	34	434	16	25	82	6.3
収支差引過△不足額		△ 247	90	△ 251	08	△ 3	18	—
損益勘定留保資金等		248	37	251	17	2	80	—
基金造成積立金			5	3	51	3	46	—
当年度資金過△不足額			52	3	60	3	08	—
累積資金過△不足額		△ 13	72	△ 9	78	3	94	—

（令和7年度末見込累積資金過△不足額 △ 1,338 百万円）

建設改良積立金残高	115	40	131	55	16	15	—
-----------	-----	----	-----	----	----	----	---

（令和7年度末見込建設改良積立金残高 11,663 百万円）

3 企業債残高

項目	令和7年度末見込 未償還残高 億 百万円		令和8年度末予定 未償還残高 億 百万円		増	△	減
					億 百万円		
建設企業債	2,198	89	2,150	04	△	48	85
資本費平準化債	151	45	126	17	△	25	28
計	2,350	34	2,276	21	△	74	13

4 基金残高


項目	令和7年度末見込残高 億 百万円	令和8年度末予定残高 億 百万円	増 億 百万円	△	減
公共下水道事業基金	14 36	23 04	8 68		

【補足】将来の大規模更新に備えた積立金の効率的な資金運用について

「将来の大規模更新に備えた積立金」として確保している建設改良積立金について、金利が上昇局面にある中、より効率的な資金運用を行う観点から、長期運用（債券運用）を実施するための支出予算（上表「基金造成費等」の内数 20 億円）を計上しています。

※ 運用による利息収入（6,700 万円）は、収益的収入の「浄水場排水処理負担金等」の内数として計上

【参考】主な数値目標

指標名		R6 決算	R7 見通し※1	R8 予算目標	R9 目標
水道	老朽配水管の解消率※2	57.1%	62.4% (目標 62.4%)	67.5%	74%
	主要管路の 耐震適合性管の割合※3	61.5%	63.0% (目標 63.0%)	64.0%	66%
下水道	下水道管路改築・ 地震対策率※4	34.8%	38.1% (目標 38.1%)	41.5%	44%
	雨水整備率※5 (10年確率降雨対応)	34.8%	35.0% (目標 35.0%)	—※6	40%
 5年確率降雨(52mm/h)対応は92%で、 全国平均の62%を大きく上回りトップ水準です！					
共通	技術系資格保持者の 割合※7	44.5%	46.0% (目標 46.0%)	48.0%	50%
	企業債残高※8	3,961 億円	3,917 億円 (目標 3,920 億円)	3,841 億円	3,800 億円

※1 見通し下段括弧内の目標は、予算における目標値である。

※2 昭和34～52年にかけて布設した耐震性に劣る初期ダクタイル鋳鉄管の平成21年度(更新事業開始年度)当初延長に対する更新済延長の割合

※3 主要管路(導水管、送水管、配水管(φ200mm以上))のうち耐震適合性のある管路延長 ÷ 主要管路延長

※4 破損等のリスクが高い旧規格の管路の延長に対する対策済延長の割合

※5 公共下水道事業計画区域面積に対する10年確率降雨(62mm/h)に対応した浸水対策済面積の割合
(5年確率降雨対応の全国平均は令和5年度実績)

※6 令和8年度中に完了する雨水幹線等がなく、数値が横ばいとなる見込のため目標設定なし
(鳥羽第3導水きょの完成(R9)により向上予定)

※7 全技術系職員のうち、業務に関係し、難易度が高い技術系資格(1級施工管理技士や技術士等)を保持している職員の割合

※8 水道事業・公共下水道事業を合わせた企業債残高(翌年度への延伸分(繰越事業に係る分)を含む数値)

持続可能な事業運営に向けて

施設マネジメントの検討結果を公表しました！



- 今後、多くの水道・下水道施設が更新時期を迎えることから、**長期的な視点で事業量・事業費の平準化を図る**とともに、将来必要となる事業費及び財政収支の見通しについて検討を進めてきました。
- その結果、水道・下水道ともに**更新需要を平準化してもなお、事業費は、現プランより増加する見通し**であることや、30年間の財政収支の見通しを作成し、**水道については、収支改善が喫緊の課題**であること、**下水道でも中長期的には財源確保が課題**であることを確認しています。

＜今後 50 年間の事業費の見通し＞

	現在	R10-19	R20-29	R30-39	R40-49	R50-59
水道	年206億	年240億	年253億	年242億	年240億	年234億
下水道	年204億	年232億	年241億	年259億	年264億	年298億

※今後の物価高騰は見込んでいません。

＜管路の更新事業量の見通し＞



上下水道事業の次期ビジョンの策定に向けた議論をスタート！



- 「京（みやこ）の水ビジョン」が令和9年度末に終了することを踏まえ、次期ビジョンの策定に向けた検討を進めています。
- 次期ビジョンは、国において中長期の社会情勢を見据えた上下水道政策の在り方が検討されていることや京都基本構想の分野別計画としての位置付けを踏まえ、**2050 年までの長期のビジョンとして策定**することを予定しています。
- ビジョンの策定に当たっては、令和7年度に新たに設置した「**京都市上下水道事業審議会**」（市民、学識経験者、民間有識者の10名の委員で構成）において、**老朽化した管路・施設の更新など事業の方向性はもとより、官民連携や広域連携、DXによる業務変革も含めた運営手法や料金制度も含めた財源の在り方等、あらゆる観点からの議論**をいただき、これらの議論の内容も踏まえながら、上下水道事業の目指すべき姿と方向性を検討してまいります。



	審議内容
第1回 (R7.8)	・京都市の上下水道事業の現状と課題、次期ビジョンの策定に向けて
第2回 (R7.12)	・今後の施設整備の方向性（施設マネジメントの検討結果等） ・今後の財源の在り方（水道事業における現状・課題、今後の見通し）

※ 年3～4回程度の開催を予定

※ 審議会資料は上下水道局ホームページに掲載

経営状況を情報発信、市民の皆さまと共有！



- 市民の皆さまに、上下水道事業の個々の事業や経営状況について御理解いただくため、経営情報を共有するリーフレットを作成し配布しています。
- 今後も、様々な場面や媒体を通じて、市民の皆さまとの事業課題等の共有に努めてまいります。

施設マネジメントの検討結果（水道管路の100年間の更新需要の平準化）を「山から丘へ」というキーワードを用いて紹介しました。



令和7年12月～令和8年1月の水道メーター検針時に「水道使用水量のお知らせ」と併せて各戸配布

